



神々が棲む島・バリ インドネシアの三島③

寺院や仏教のポロブドゥール遺跡の素晴らしさを見てもよくわかる。

ヒンズー教や仏教がインドから現在のインドネシア共和国の領域に伝わったのは四世紀ごろといわれる。現代ならまだしも、動力エンジンもない時代にマレー半島を経て伝わったのだらうが、当時の人類の力強さに驚かされる。そしてこの地域でこれらの宗教がいかに栄えたかはジャワ島に残る世界遺産のヒンズー教遺跡、プランバナン

ちなみにインドでは、仏教はヒンズー教の一派とみなされ、二つの宗教は敵対してはいなかったらしい。バラモン教を前身とするヒンズー教は現在、約九億人が信仰



各地にある悪霊よけの「割れ門」

二番目に大きいタマン・アユン寺院の「メル」



が棲む島・バリ」と表現される。バリ島内を観光して一番感じたのは寺院が多いこと。ガイドの説明によるとその数は三万を超え、ほとんどがヒンズー教寺院だという。これらの寺院には入り口に「割れ門」と呼ばれる、山を真ん中で二つに切ったような門がある。これは悪霊が中に入らないように左右の石門（せきもん）で進入を阻止するためという。

これはバナナややしの葉で作った皿に米や花を入れたものである。ところでヒンズー教といえば、生まれた時から身分や職業が決まっている「カースト制度」を連想する人が多いと思う。しかしバリでは長い歳月を経て土着化する過程でカースト制度は薄れ、結婚や就職に際してもインドのように厳しい影響を受けることはないという。

もう一つの特徴は日本の五重の塔のような「メル」と呼ばれる塔があること。塔の数は奇数で最高は十一ある。神はこのメルを伝つて来られるという。そして「チャナン」と呼ばれる神への供え物が寺院や家の入り口に供えられる。

とはいえ島民の九割はヒンズー教徒。ヒンズーの神々が住民の生活や観光において大きなウエイトを占めていることは間違いない。

し、キリスト教、イスラム教に次いで信徒数は世界第三位だが、そのほとんどはインドに集中しているので地域宗教とされる。そして世界三大宗教という時は、ヒンズー教より信徒数は少ないが、世界各地に伝わった仏教がヒンズー教と入れ替わる。

スラム教の国家としてインドを挟んで東西パキスタンが独立した。今は西パキスタンはパングラデシュという名前の国家になっている。さて、イスラム教勢力は十六世紀にはインドネシア地域にも侵攻し、中心地ジャワ島をはじめほとんどをイスラム化した時、ジャワのヒンズー教徒はバリ島に移り住み、バリ島だけがヒンズー教の信仰を守り続ける島となった。ヒンズー教は多神教であるため「神々

神への供え物「チャナン」



神への供え物「チャナン」